お茶の水学術事業会会報　第 24 号

ellipse

［エリプス］

平成23年
2月

楕円（ellipse）には焦点がふたつあります。男性中心の社会から、女性と男性がそれぞれに中心（焦点）となる社会を目指すという思いを込めて、誌名を［エリプス］と名づけました。

TOPICS

女子大学から生まれるイノベーション その3

1．ユビキタスコンピューティングと Ocha House －コンピュータ利用と女性
　お茶の水女子大学理学部情報科学科　椎尾 一郎氏

2．食と栄養に関するサークル「Ochas」の活動
　お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科　赤松 利恵氏

ワ・タ・シ

深津千鶴　FUKATSU, Chizu　イラストレーター
東京生まれ。1988年、お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業。在学中に、『週刊朝日』誌上にて「山藤章二の似顔絵塾」特待生となる。広告代理店勤務を経て、1990年より作家活動を開始。書籍装画、CDジャケットなど多く手がける一方、エッセイ執筆、壁画制作などの活動を展開している。

REPORT

ブックレット９「子どもは変わる・大人も変わる
　―児童虐待からの再生」
　著者　内田伸子氏　インタビュー

平成 22 年度附属校園 PTA 主催コンサート
山田邦子さんとスター混声合唱団

お茶の水女子大学附属図書館ミニコンサート

INFORMATION

お茶の水女子大学イベント情報

平成 23 年 4 月開講
「SHOKUIKU プログラム」のご案内

事務局よりお知らせ

特定非営利活動法人
お茶の水学術事業会

女子大学から生まれるイノベーション その3

2010 年度の「ellipse」は「女子大学から生まれるイノベーション」と題して、“ 女子の ” 大学という特性を持つ本学が果たすべき “ 社会貢献 ” について考えてきました。

第 22 号では、池田まさみ氏（本学イノベーション・プロデュース研究会座長）に、3 女子大学（奈良女子大・日本女子大・本学）の教員を対象に行った「社会貢献に関するアンケート調査」の結果を基に、女子大学の現状と社会貢献の展開について考察していただきました。本学では、“ 社会に活きる知 ” を核にもつ人間力育成の使命を再認識すると同時に、大学智の還元のあり方を再考し、その智を地域・社会に幅広く発信、活用、持続していくための組織的・体系的な取り組みが不可欠とのことでした。

第 23 号では、その 1 例として、宮本康司氏（本学サイエンス＆エデュケーションセンター）に、大学が地域において市民向け講座を開設したり、公教育支援を行ったりする事例から、地域が資金を準備して大学が幅広い世代のニーズに応じた智を提供するという新しい社会貢献の形態を紹介していただきました。

最終回となる今号は、女子大学ならではの分野の 1 つである生活科学系から、女性の視点を活かして近未来への貢献を模索している Ocha House と、「食」をテーマに学生たちが主体となって行っている Ochas の取り組みについて、紹介していただきます。

1. ユビキタスコンピューティングと Ocha House －コンピュータ利用と女性

お茶の水女子大学理学部情報科学科教授　椎尾一郎

◀椎尾 一郎（SHIIO ICHIRO）
1979 年名古屋大学理学部物理学科卒業。
1984 年東京工業大学大学院総合理工学研究科博士課程修了。
同年、日本アイ・ビー・エム (株) 東京基礎研究所に入社。
1997 年玉川大学工学部電子工学科。
2005 年よりお茶の水女子大学理学部情報科学科教授。
工学博士。

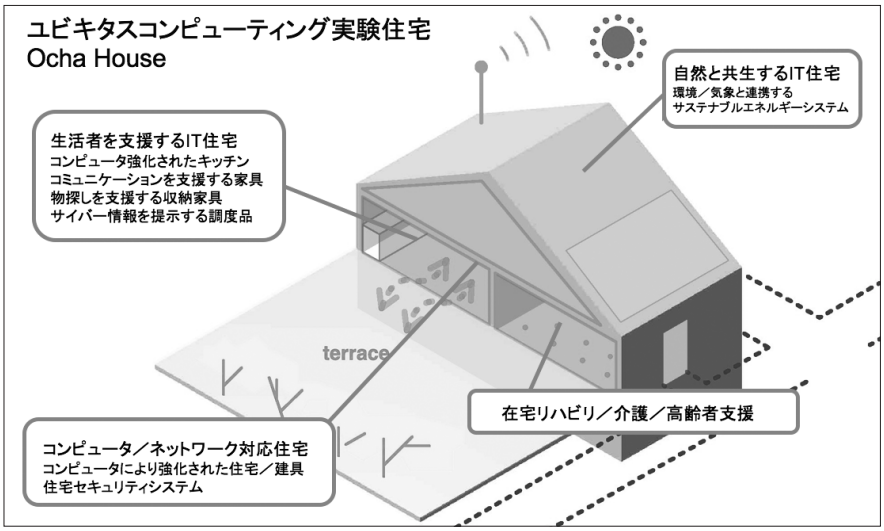
1990 年にゼロックスの研究者マーク・ワイザーが、「21 世紀のコンピュータ」という論文を書きました。その中で、ほかの成熟した技術と同様に、近い将来、コンピュータとコンピュータ技術も生活の中にとけ込み、当たり前の存在になり、人々の意識から消えていくであろうと予言しました。そのようなコンピュータ利用形態を、どこにでも普通に存在するという意味で、“ ユビキタスコンピューティング ” と命名しました。

近未来に、現在のパソコンのような生産やビジネスのための道具が消えて無くなることはありませんが、生活の中に溶け込んだ日用品としてのコンピュータが一般的になり、それがコンピュータ利用の主流になると考えられています。

コンピュータ利用の場が、オフィスに代表されるビジネスの現場から、生活空間に移行するにつれて、人々が長い時間を過ごす家が、重要な舞台になりつつあります。一般に、コンピュータ研究者や技術者の職場はオフィスでもあるので、そこに新しいアイディアを適用し、実験、評価することは比較的容易でした。そこで、インターネットやワープロなどが発明されてきました。

しかし、コンピュータ利用の場が家を含む生活全般になると、オフィスだけが対象というわけにはいきません。とはいえ、人が実際に生活を営んでいる家に対して、大掛かりな改造を伴な

図1　実験住宅 Ocha House の全景



う実装を行ったり、多数の人に訪れてもらって成果を公開したりすることは困難です。そのため、米国の大学をはじめ、様々な大学や研究機関で、コンピュータ利用を研究する実験住宅を建設して、そこで実証実験が行われています。

お茶の水女子大学でも、2009 年に、お茶の水女子大学ユビキタスコンピューティング実験住宅（通称 Ocha House）を建設しています。

図 1 に Ocha House の全景を示します。これは、大学南門から茗荷谷駅方面に少し歩いた小石川寮に隣接した、旧職員住宅跡地に建てられた実験住宅です。敷地面積は 259.6 平米であり、住宅部分以外は、庭、玄関アプローチ、駐車場などになっています。

従来、大学、研究施設などで建設されたユビキタスコンピューティング実験住宅の多くは、通常の住宅に準じた設計がされていました。これに対して Ocha House は、本学生活科学部の元岡展久准教授の設計により、容易にコンピュータ機器を組み込める工夫がされています。こうした斬新な住宅設計が評価され、2009 年のグッドデザイン賞を受賞しました。Ocha House には、家庭を対象としたさまざまなユビキタスコンピューティングのためのアプリケーションが持ち込まれ、実証実験を行っています。その多くは、本学大学院の修士課程、博士課程の研究、学部卒業研究として行われ、女性の視点にたった提案として、学会などで注目を集めています。

たとえば、図 2 に示す、SyncDecor は、同期する日用品を利用して、離れて暮らす家族や恋人などに仮想的に同居しているような感覚を提供するシステムです。遠隔地に置かれたランプの明るさ、ゴミ箱のふたの開閉、電気器具のオン・オフ、赤外線リモコン操作、音楽プレイヤーの動作などが連動します。

図 3 は、高解像度カメラと液晶ディスプレイにより構成した電子的な化粧鏡です。化粧鏡の本来の機能を電子的に強化することを目的として、ポイントメイクの場所へのパン・ズーム機能などを実装しています。目元や口元などのポイントメイクを行うために化粧道具を顔に近づける自然な操作を行うと、顔と道具が画像認識されて、その部分へカメラが自動的にパン・ズームします。また、人が鏡に顔を近づける動作を近接センサで検出して、これにより拡大表示を行う機能も実現しています。

コンピュータが生活の中にとけこんだ日用品になることで、情報技術を学んだ学生たちの活躍の場も変化していきます。

たとえば、1970 年代に、自動車会社が新車の設計をするとき、そのチームにコンピュータ技術者は居なかったでしょう。しかし、今ではコンピュータ無しではエンジンも回りません。現在、ベネトン、ノリタケ、イケアなどが、新製品を設計するとき、そのチームにコンピュータ技術者は居ないかと思われます。しかし、コンピュータが日用品に普通に組み込まれる近未来には、衣服、食器、家具に組み込むコンピュータを設計するための技術者が、開発チームに入っていることでしょう。コンピュータが、ボタンやファスナーやドアの取っ手のような普通の部品になると、日常生活のあらゆる分野を対象とした企業で、コンピュータ技術者が必要とされるでしょう。

情報科学科でコンピュータを学んだ学生は、従来は、卒業するとオフィス、工場、研究所などの、生産、金融、ビジネス、科学技術の最先端の場で働いていました。女性の進出が望まれている分野ではありますが、女性技術者にとっては、依然として男性が多勢のアウェイな環境に立ち向かっていく覚悟が要求されていました。

ユビキタスコンピューティングの時代になり、生活のあらゆる場面がコンピュータ利用の対象になります。オフィスや工場などのビジネスの場と違い、家などの日常生活の場にいるユーザの半数は女性です。それどころか、日常生活のあり方に意識を持ち積極的に関わるという観点では、女性が優位な分野だと言えます。そのような分野で必要とされるコンピュータアプリケーションを考えていく上で、女性の視点からの発想が求められています。多くの情報技術企業が、多様性の観点から女性技術者の採用を進めているのも、そのような背景があるからです。成熟した技術になりつつあるコンピュータ技術は、女性が活躍する分野として今以上に注目されると考えています。

図 2　SyncDecor: 同期する家具、日用品、調度品

図 3　メークアップを支援する電脳化粧鏡

2. 食と栄養に関するサークル「Ochas」の活動

お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科　赤松利恵

お茶の水女子大学生活科学部食物栄養学科は、平成 16 年度より管理栄養士養成施設としてのカリキュラムで授業を行っています。Ochas（オチャス）は、その一期生が作った食と栄養に関する活動団体です。学生から「学校で学んだ食や栄養学的知識を実践の場で生かし、社会貢献をしたい」と相談があった日のことは昨日のことのように、よく覚えています。管理栄養士の役割は食や栄養に関する専門的知識をもって、社会の人々の健康的な食生活を支援することであり、それを目指したカリキュラムを受けたからでしょうか。学生が自主的に申し出てきたことをうれしく思いました。その日から 6 年がたち、今では大学公認サークルとして、様々な活動を行っています。

Ochas は、食に関するイベントへの参加の他、いくつかのチームにわかれて活動を行っています。ここでは、ふだんあまりおもてに出ないチームの活動についてご紹介します。

写真1　赤松先生（後列左）と Ochas のメンバー

▲ 赤松利恵（AKAMATSU RIE）
2004 年京都大学大学院医学研究科修了。博士（社会健康医学）、管理栄養士。お茶の水女子大学講師を経て、2008 年より同大学大学院准教授。専門は健康教育（栄養教育）、公衆衛生学、健康心理学。2006 年より、サークル Ochas の顧問を務める。

食プレチーム

食プレは食に関するプレゼンテーションチームの略で、メンバーそれぞれがテーマを決めてパワーポイントで発表しています（写真2）。テーマは食に関することなら何でもよいとしています。そのためプレゼン内容は様々です。たとえば「塩のあれこれ」「豆腐」「さんまをおいしくたべよう」といった食材を取り上げたもの、「五節句とその行事食」といった食文化に関するもの、「食中毒にそなえよう」「バイオ燃料の最先端」などがあります。発表時間は 15 ～ 20 分程度で、昼休みを利用して発表しています。

人前でもしっかり話せるようになるためには訓練が必要ですが、そのような機会は自ら作らなければなりません。食プレは同学年の学生だけではなく他学年の学生にも聞いてもらえるので、適度な緊張感があり良い訓練の場です。また聞き手にも、身近でありながらあまり知らなかったことを、分かりやすいプレゼンを通して短時間で知ることが出来る、というメリットがあります。

発表を終えたらアンケートを回収し、注意事項や改善点をみんなで共有して互いにブラッシュアップしています。いろいろなプレゼンを聞くことで、食に関する幅広い知識が身につくとともに、より魅力的なプレゼンへの創造力を養っています。

ナーサリーチーム

ナーサリーチームは、おやつを通して子どもの食を考え、お茶大附属保育園であるいずみナーサリーで実践しています。主な活動は「おやつ作り・保育ボランティア」「おやつ献立・おやつだよりの作成」「イベントの企画」「おやつレシピの開発」です。

おやつ作り・保育ボランティアは週に 1 回の活動です。午前におやつを作り、午後に食べる様子を観察し保育のお手伝いもしています。おやつを作るだけでなく、実際に子どもたちと触れ合い、子どもたちが食べているところを観察したりすること

写真2

写真3

で、さらに子どもの食についての理解を深めることができます。次の日はミーティングを開いて、おやつ作りの注意点、子どもの反応、保育士の先生方からのご意見を共有することで次に活かしています。

おやつは「安心・安全・おいしい」を心がけています。食中毒のないように、衛生には十分注意し、アレルギーにも配慮して献立作成やレシピ開発を行っています。季節感にこだわり、旬の食材を多く取り入れ、イベントおやつも考案しました。味覚を形成する大切な時期の子どもたちに望ましい栄養と味を提供できるよう工夫しています。今年度は季節のイベントとして「すいかパーティー」を開きました（写真3）。おやつにフルーツポンチを提供し、オリジナルのパネルシアターを実演し、子どもにフルーツに親しんでもらうことを試みました。

インターナショナルチーム

インターナショナルチームは、世界中の食に関する活動を様々な面から行っています。インターナショナルチームの主な活動は、Table For Two と呼ばれる、世界の食の不均衡を改善するための活動です（写真4）。お茶の水女子大学の学食で販売されているインターナショナルチームが考案したメニューを食べると、一食につき 20 円含まれている寄付金によって、ウガンダ、ルワンダ、マラウィなどアフリカの国々の子供たちに給食が届けられます。またそのほかの活動として、昨年の夏休みにはアジア、南米、アフリカなどの普段あまり食べる機会のない料理をメンバーで作りパーティーをしました。今年の夏休みには日本料理を作り、あらためて日本料理の美しさ、おいしさを再発見しました。また、徽音祭では、他の Ochas のチームと一緒にカフェを出店し、インターナショナルチームはインドからのフェアトレード商品のコーヒーと紅茶を提供しました。来年はチームも設立から 4 年目に入るので、さらに活動を広げていく予定です。

写真4

ファームチーム

ファームチームは「畑を自らの手で耕したい！」「自分達で育てた野菜を食べたい！」そんな思いをもった人が集まったチームです。生産者の立場に立った様々な活動を行っています。

ファームチームの主な活動は、野菜作りです。大学敷地内の土地をお借りして、土作りから自分達の手で行います。雑草を抜き、石を取り除き、土を掘り返す作業はなかなかの重労働です。土が出来ると、種や苗を植え、毎日交代で水やりを行います。今年度は、冬には大根・水菜・ねぎ・白菜を、春にはじゃが芋を、夏には茄子・トマト・枝豆・かぼちゃ・ピーマンの栽培を行いました（写真5）。暑さや、雑草、害虫、害鳥のために、実際に収穫できる量は多くはないものの、実の付いた野菜はメンバー全員で収穫します。

写真5

ファームチームが毎年行っている活動のもう一つに、果実酒・果実ジュース漬けがあります。毎年 6 月ごろ、果実とホワイトリカー（または水）、氷砂糖を一緒に漬け、約 3 ヶ月待ちます。今年度は、梅・アメリカンチェリー・レモン・トマトを漬けました。

収穫した野菜を各自調理して持ち寄り、果実酒・ジュースと共に、年に 3 回ほどファームパーティーを開催しています。自分たちで育てたものの味はやはり格別です。また、このパーティーでメンバー同士の親交を深めています。その他にも、不定期の活動として、牧場に行って、実際に牛の世話のお手伝いをしたり、食品会社へ工場見学に行ったりしています。このような活動を通して、ファームチームでは“生産する”ということを体験しています。

この他に、スイーツチームとお茶開発チームがあります。どちらもお茶大オリジナルの商品を開発しています。現在、スイーツは、「ときわこまち」「まかろじぇんぬ」「お茶とお豆のパウンドケーキ」の 3 種類で、入学式、卒業式、文化祭など大学の行事で販売しています。お茶は、「ハーブ＆ほうじ茶」「ゆず＆ミント緑茶」「おちゃのみいぜ」などで、大学生協、株式会社下堂園からのネット通販などで購入できます。メンバーが何度も試作し開発した力作です。ぜひ一度ご賞味ください。

このように、Ochas は様々な食の活動を行っています。Ochas の活動は、参加している学生自身の良い経験になっているだけではなく、社会貢献にもなっていることが素晴らしいことだと思います。Ochas で出会った人たちに感謝し、これからも積極的に参加し、成長していってほしいと願っています。

執筆協力：食物栄養学科 3 年　Ochas 代表　高梨郁恵

お茶の水女子大学 イベント情報

2011 年 2 月以降に開催される各種イベントのお知らせです。詳細は、各主催者にお問い合わせください。

期日	イベント・講座名	参加費	備考
2011 年 1 月～3 月	第 12 回附属図書館企画展示 「卯　うさぎ　兎」	無料	【会場】お茶の水女子大学附属図書館 1 階キャリアカフェ横 【詳細】附属図書館の HP をご覧ください。 http://www.lib.ocha.ac.jp/tenji/tenji_top.html 【お問合せ】E-mail：library@cc.ocha.ac.jp
2011 年 4 月～5 月	第 13 回附属図書館企画展示 「ようこそお茶大へ 2011」		
2011 年 2 月 5 日（土） 10:00 ～ 12:00	平成 22 年度 幼児教育未来研究会 テーマ：子育て支援の質を問う ◆ 事例提供：文京区立本駒込幼稚園 ◆ 助言：大豆生田 啓友先生（玉川大学）予定	無料＊	【会場】お茶の水女子大学附属幼稚園 【詳細・お申込み】 「幼児教育未来研究会」のＨＰをご覧ください。 http://www.u-gakugei.ac.jp/~miraiken/ ＊資料代をいただく場合がございます。
2011 年 2 月 21 日（月） 14:00 ～ 16:00	公開講演会 「共に生きる―ミリアム・ウェレ博士に聞く」 2008 年第 1 回野口英世アフリカ賞を受賞され、ケニアでの青少年活動や保健医療活動の分野での先駆者であるミリアム・ウェレ博士をお招きしての公開講演会です。	無料	【主催】お茶の水女子大学グローバル協力センター 【会場】お茶の水女子大学共通講義棟 2 号館 201 号室（予定） 【お問合せ・お申込み先】 お茶の水女子大学グローバル協力センター E-mail：info-cwed@cc.ocha.ac.jp
2011 年 2 月 4 日（金）、 8 日（火）、 18 日（金） 10:30 ～ 16:10	理科教育支援者養成プログラム 「理科支援員コース」 小学校の理科授業を支援する人材「理科支援員」の養成および研修を行います。	無料	【主催】お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーションセンター 【会場】お茶の水女子大学 【お問合せ・お申込み先】 http://www.cf.ocha.ac.jp/sec/projects/conso/h22sienin.html
2011 年 3 月 8 日（火）、 11 日（金） (1) 10:30 ～ (2) 13:00 ～	理科教育支援者養成プログラム 公開講座「理科支援員コース検定」 理科教育支援者養成プログラム「理科支援員コース」の科目「理科実験」、科目「学校リテラシー」について、実技試験と筆記試験を行います。合格された方には、お茶の水女子大学より認定証を発行します。	検定費 18,000 円	
2011 年 3 月 26 日（土）	A-WiL 国際シンポジウム ◆テーマ：「女性リーダーシップの実現に向けて―理念の力と各国の取り組み」“Toward Enlargement of Women's Leadership: The Philosophy and Policies of Brazil, the EU, Korea, the U.S. and Japan” ◆内容：「A-WiL」とは、お茶の水女子大学が、文部科学省特別経費によって実施している事業「女性リーダーを創出する国際拠点の形成」（平成 22 年度～27 年度）の略称で、その英語名「International Research Program for the Advancement of Women in Leadership」に基づいています。本事業の国際的な推進の一環として、各国の男女共同参画の取り組みを紹介するとともに、今後のあるべき方向性を模索するシンポジウムを実施します。	無料	【主催】お茶の水女子大学　リーダーシップ養成教育研究センター、ジェンダー研究センター、女性支援室 【会場】お茶の水女子大学徽音堂（予定） 【お問合せ・お申込み先】 お茶の水女子大学リーダーシップ養成教育研究センター E-mail：info-leader@cc.ocha.ac.jp 〒 112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 TEL03-5978-5520（センター直通）
2011 年 4 月～8 月 （前期）	公開講座「知の市場」 公開講座ネットワークである知の市場は 2011 年度に全国 30 拠点で 109 科目相当を開講する予定です。お茶の水女子大学では、2011 年度に 5 科目を開講し、前期開講科目は CT514（新規：特許情報活用論）、CT531（改訂：国際石油論）及び CT541（新規：金融特論 2）の 3 科目です。 （詳細は知の市場 HP：http://www.chinoichiba.org 参照）	無料	【主催】お茶の水女子大学 ライフワールド・ウオッチセンター 【会場】お茶の水女子大学共通講義棟1号館 【募集】前期の受講者募集は 2011 年 1 月 21 日から開始 【受講応募申し込み】 ①受講者登録：知の市場 HP・http://www.chinoichiba.org ②科目応募申込：お茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター（増田研究室）HP・http://www.chinoichiba.org/lwwchp 【お問合せ先】 知の市場 お茶大事務局　E-mail：ocha-jim@chinoichiba.org 〒 112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 TEL03-5978-5018、FAX03-5978-5096
2011 年 5 月 28 日（土） 午後	桜化会 OUCA 主催講演会「生活と化学」 ①大島昌子氏（S 50 化卒、花王株式会社 生活者コミュニケーションセンター）「消費生活アドバイザーから見た生活者 ～洗剤メーカーの消費者相談窓口から～」 ②河合美佐子氏（S 59 化卒、味の素株式会社 イノベーション研究所）「味やニオイの化学」	無料	【お問合せ先】 桜化会 OUCA 事務局　E-mail: ouca@cc.ocha.ac.jp Tel & Fax03-5978-5290（木曜日 11 時 -15 時） 〒 112-8610 文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学理学部化学教室内 http://www.chem.ocha.ac.jp/~ouca/

平成 23 年 4 月開講　大学院副専攻
「SHOKUIKU プログラム」のご案内

お茶の水女子大学 SHOKUIKU 総合研究部門教授　河野　一世

▲ 河野 一世（こうの　かずよ）
本学食物学科を卒業後、味の素（株）に勤務し、中央研究所、広報室、食の文化センターを通して一貫して「食」に携わる。2002 年 博士（学術）を取得、研究対象は日本食のベースであるかつお節だし。2009 年『だしの秘密』（建帛社）を上梓。

2005 年に食育基本法が施行されて 5 年が経過し、学校や公的機関、企業、地域、家庭など様々な場で食育活動がおこなわれ、マスメディアによる食情報発信も盛んです。しかし、食の安心・安全や、生活習慣病の改善、文化の伝承、食料問題など食育の場で必要とされる情報が多様化しているにもかかわらず、昔から言われてきたことや根拠のないものが検証されないまま使われている状況も散見されます。

日本における食育をさらに充実したものにし、日本発の「SHOKUIKU」を国際的に普及させるためには、食に関する科学的根拠を構築し、発信することができる高度な食育スペシャリストの育成が、今必要とされています。

来年度、本学大学院に副専攻として開講する「SHOKUIKU プログラム」では、学際的基盤に立った食に関する幅広い専門性と実践力をもった高度食育専門家の育成を目指します。食の学問領域を食教育、食科学、食環境、食文化に大別して様々な学問的背景の上に、「食」に関する教育及び研究を進めることを基本とします。文理融合をめざし学内のどのコースからも履修可能です。

なお 2 月 7 日には、SHOKUIKU プログラム開設記念シンポジウムを「今、なぜ食育研究か」と題し、ホテルメトロポリタンエドモントにおいて開催いたします。今後を見据えた食育のあり方について、各分野のご専門の方々に論じていただくとともに、ご一緒に考える場になれば幸いです。

※シンポジウムの詳細については、HP（http://www.cf.ocha.ac.jp/ochashoku/）をご覧ください。

【お問合せ先】お茶の水女子大学 SHOKUIKU 総合研究部門
Tel&Fax：03-5978-2689　E-mail：ochashoku@cc.ocha.ac.jp

時を越えるベヒシュタインの調べ
～附属図書館ミニコンサート

2010 年 3 月、附属図書館のラウンジに 1 台のピアノが設置されました。ドイツのベヒシュタイン社製の小型グランドピアノで、関東大震災後にお茶の水女子大学が現キャンパスに移転した際（1932 年）、附属女学校（現附属高校）の生徒の親から寄贈されたものです。以後 70 年以上にわたり音楽教室で使用された名品は、2003 年に復元修理され次世代に受け継がれる事となりました。

▲ 10 月 29 日のミニコンサートで、「平均律クラヴィーア曲集第 1 巻より第 13 番 嬰ヘ長調 前奏曲 フーガ」（J.S. バッハ作曲）、「幻想曲 作品 77」（L.v. ベートーヴェン作曲）を演奏する田辺沙保里さん（音楽表現学コース修士 1 年）

▲ 12 月 24 日のクリスマス・コンサートの様子
（写真提供：お茶の水女子大学附属図書館）

演奏者のタッチに敏感に反応し、透明感のある音色とはっきりとした音像を奏でるベヒシュタイン社製のピアノは、リストやドビュッシーが愛したことでも知られています。第二次世界大戦前には、東京音楽学校（現東京藝術大学音楽学部）、東京帝国大学、東京商科大学（現一橋大学）などにも納入されましたが、現在使用可能な状態で保存されているのは、本学のほかは一橋大学校友会（如水会館）が所有するもののみだそうです。

この伝統あるピアノを使用したミニコンサートが、2010 年 6 月から附属図書館のラウンジで開かれています。平日のお昼休みを利用した 15 ～ 30 分ほどの短い時間ですが、音楽表現学コースの学生による本格的な生演奏を気軽に楽しむことができる贅沢なひとときです。附属図書館の新たな名物として、ベヒシュタインの豊かな音色は、これからも多くの人々に愛されていくことでしょう。

（ピアノの歴史については、大学 HP　http://www.ocha.ac.jp/topics/h150919.html「幻のピアノ 80 年ぶりに復活」（文：秋山光文教授）より抜粋）

※次回のミニコンサートは、2011 年 3 月 22 日（火）の予定です。

お茶の水ブックレット 9

『子どもは変わる・大人も変わる―児童虐待からの再生』
著者　内田伸子氏インタビュー（その２）

2010 年 7 月に発行したお茶の水ブックレット 9「子どもは変わる・大人も変わる－児童虐待からの再生」は、多くの方からご注文、お問い合わせをいただいております。深刻化する「虐待」に対して“なんとかしなくては”という意識が高まりつつあることのあらわれではないかと思います。

前号に引き続き、著者の内田伸子先生へのインタビューをご紹介いたします。

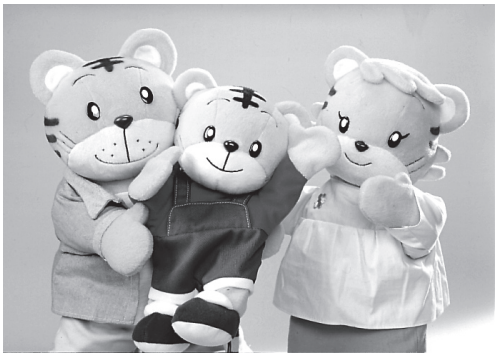
▲内田 伸子 氏

お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授。専門分野は発達心理学、認知心理学、言語心理学、幼児教育学。学術博士。学校心理士。

Q. 内田先生は、子どもたちに大人気の「しまじろう」パペットを考案されたと伺っております。どんなコンセプトでお作りになったのですか。

A. 20 年前にベネッセの編集者から 2 ～ 3 歳児向け教材開発の監修を引き受けてほしいと依頼がありました。幼児初期から系統的・機械的な学習をさせることは「百害あって一利なし」とお断わりしましたが、その後も足を運び続ける担当者の熱意に脱帽して、「教材」ではなく、母子の遊びの素材になるような、仕掛け絵本とビデオと付録のおもちゃが三位一体となった「マルチおもちゃ」の開発であればと、８つの条件を出して監修を引受けました。親子で会話し遊びながら、子どもは「世界づくり」や「地図づくり」で自分の世界を広げていきますが、親子の会話が煮詰まったときに「第三の人物」または「黒子」としてパペットを使うことを思いつき、パペットのキャラクター「しまじろう」を決めました。８番目の条件はモニター調査をしてよりよい「マルチおもちゃ」に改善するということでした。現在も内田研の博士課程の院生たちがその調査に関わっています。子どもの生理や心理に配慮して、利益が薄くてもよいおもちゃを提供したいという目論見は見事ヒットし、今幼児 3 人に 1 人がこのおもちゃで遊んでくれています。

この仕事にはとても嬉しい副産物がありました。あのＦと再会した時、Ｆが「私、内田先生と毎月会っているよ。子どもたちが「こどもちゃれんじ」を取っていて、監修欄に内田先生の写真が載っているから」と言ってくれたのです、この言葉を聞いた時ほど「監修を引き受けてよかった！」と、強く思ったことはありません。



▲しまじろうファミリーのパペット

Q. 時間的・精神的な制約の中での子育ては本当に難しいと思います。現在育児中の方々へ一言お願いします。

A. 子育ては物理的な時間の長さではなく、短時間であっても子どもに心をこめて関わることが大事だと思います。他の子と比べるのではなく、その子自身の進歩を認めてやること、禁止や命令でトップダウンに決めつけず「～したら?」と提案の形で提示すること、そして子ども自身で考える余地を残すことが大事です。しかし「手遅れ」「もうおしまい」と焦る必要はありません。『子育てに「もう遅い」はありません』（成美堂出版）の一言を添えさせていただきます。

Q. 今、児童虐待は増え続けています。その元凶となる「負の世代間連鎖」を断ち切るために、隣人としての私たちはどのようにしたらよいでしょうか。

A. 虐待を受けている子どもや成人は、心と身体が委縮して縮みあがっています。自分は愛される価値のない人間だと思いこ

んでいて、自尊感情が非常に低いのが特徴と言えます。周囲の人々とのよい関係を築くことが難しく、学校でも地域でも孤立状態になる人が多いようです。思春期に性的虐待を受けた場合には統合失調症に罹る事例も多く報告されています。ですから、虐待の系譜に繋がれた人々への地域社会や隣人のサポートは大きな力を発揮します。先ずは人格をもった普通の人として仲間に入れてあげることです。悩みや辛さを訴えられた場合にはありのままを受け入れ、少し親しくなったら、「あなたは悪くない」「あなたの人生の主人公はあなた」というメッセージをことばと行動で示してあげられるといいですね。ただし、あくまでも相談されたら、という条件つきです。隣人として善意でサポートするにしても、やはり個人の生活に深く中まで入り込まず、踏み込まず、相談を受けたら共感的に受けとめるというくらいの距離をとるのがよいのではないでしょうか。

子どもが虐待されているらしいと気づいたら、児童相談所にすぐに連絡を入れてください。さらにどうなったかを見届けていただけるとよいと思います。たとえば、「カリヨン子どもの家」というＮＰＯのグループホームがあります。虐待されて逃げてきた子どもを受け入れ、親から隔離して保護するホームです。ボランティアの弁護士さんも加入しているので法的根拠を持ちつつ保護者から引き離すことができるそうです。

Q.『子どもは変わる・大人も変わる』において、内田先生は、「体験」や「物語」を綴ることによって負の連鎖を断ち切ることができると述べておられましたが、今の子どもたちの「書く力」についてどのようにお考えですか。

A. 最近、OECD の国際学力比較調査（高 1）や、文科省の学習到達度調査（小 6・中 3）の結果でも、日本の子どもたちの言語力、すなわち考える力が弱いことが明らかにされています。考える力を身に着けるには、自由に語り、自分の考えをメモするなど、語り、かつ書く機会を多く設ける必要があると感じています。大人がよい聞き役になって、子どもにたくさん語らせることや、子どもたちが日常的に文章を書くような指導・取り組みがなされれば、負の連鎖を断ち切る強い力を育てられると思います。

Q. 改めてご著書で最も訴えたい事をお願いします。

A. 人は生涯発達し続ける存在です。子どもは変わります。大人も変わります。遅すぎるということはありません。自分をよりよい存在へと変えていく力は、どの人にも平等に与えられています。違いがあるとしたら、それは、「希望を失わずに進むことができるかどうか」の一点です。

Q. 最後に、先生のご研究について少しお話を頂けませんでしょうか。

A. 私は「言語と認識の諸問題」に関心を持って研究してきましたが、究極の目標は「人間の知」の探究です。大人を対象にしては捉えられない現象を扱うため、人間発達の過程、特に乳幼児期の発達の視点から、認知発達や言語発達について研究してきました。

また、想像力についても関心があり、イメージと言葉の関係を知るために作文の心理学に取り組みました。イメージが言葉によってはっきり形を成していく過程を捉えるために推敲過程の研究を行いました。当時は作文の推敲の研究は皆無でしたが、認知科学という領域が台頭してきて、心理学分野では使われなかった方法論、すなわち「発話思考法」（頭に浮かんだ考えを口に出す時、頭の中で起こっている情報処理過程を推測する方法）を使った研究が出てきましたので、私もその方法を使ってコンピュータシミュレーションによって仮説を検証したいと考えました。シミュレーション言語のプロダクション・システムの勉強もしましたが、結局、人間の推敲や彫磨の過程（ことばを選び、文を整え磨く過程）はとても複雑で、シミュレーションまではいきませんでしたが、人間がアイディアを発見するときのダイナミックな心の働きの一端を知ることができました。

そんなふうに、自分が知りたいことについては、どの学問領域の方法論かにとらわれず、使えるものはなんでも使うという方針で研究をしてきました。脳科学、認知科学（言語学・哲学・心理学・社会学から人工知能や計算機科学、情報学などまで含む文理連携複合領域）は勿論、社会人類学、言語学なども文献検索の範囲に入っており、それらの領域の学会誌にも論文を発表しています。専門領域が「タコ壺化」するとその領域を矮小化してしまいます。若い頃から、専門領域を越境することに抵抗感を持たずに研究をしてきたことが、多少なりとも視野の広がりを助けてくれたかと思っています。

内田先生、ご協力有難うございました。

お茶の水ブックレット

第 1 号「教育と平和ーアフガニスタン女子教育支援シンポジウムから」
第 6 号「『女性と科学』を科学する」
第 7 号「家族と犯罪ー近しい者の憎悪はなぜ？」
第 8 号「明治 大正 昭和 に生きた女性作家たち」
第 9 号「子どもは変わる・大人も変わるー児童虐待からの再生」
第 2 号～第 5 号は在庫切れとなっております。
★ご注文は下記まで【1 冊 500 円・送料別】
お茶の水学術事業会事務局
TEL&FAX：03-5976-1478　E-mail：info@npo-ochanomizu.org

平成22年度 附属校園 PTA 主催コンサート
山田邦子さんと スター混声合唱団

【会場】お茶の水女子大学講堂（徽音堂）
【日時】平成 22 年 10 月 11 日（祝）　13:00 ～ 15:00

いずみナーサリー、お茶の水女子大学附属幼稚園、小学校、中学校、高等学校の 5 校園 PTA からなるお茶の水女子大学附属校園 PTA 連絡委員会は、お互いに連携しつつ、保護者の意識の向上・子どもの健全育成を図ることを目的として、年に1回講演会などを行っています。

今年度は、附属中学校の PTA が中心となり、10 月の「乳がん撲滅キャンペーン月間」に因んで、タレントの山田邦子さんの講演会とスター混声合唱団のコンサートを開催しました。

乳がんは早期に発見できれば治る可能性が高いと言われていますが、日本では検診受診率が低く、先進国で唯一、乳がんで亡くなる人が増えているのだそうです。こうした状況を変えようと、10 月には、「ピンクリボンフェスティバル」と称して、街や建物がピンク色に彩られるほか、ウォーキングやシンポジウムなど、早期発見の大切さを訴える催しが各地で開かれています。

この日も、受付や会場案内に立った役員や関係者の胸には、手作りのピンクリボンが付けられていました。

祝日の催しということもあり、満席の会場には家族で参加されている方も多くいらっしゃいました。乳がんの当事者となる女性だけではなく、男性や子どもも一緒に、がんとの向き合い方や、支え合い労わり合うことの大切さを考える良い機会になったのではないかと思います。

▲ 楽しそうな会場の様子

▲ 身振り手振りを交えながら、会場に語りかける山田邦子さん

第 1 部　山田邦子さん講演会

山田邦子さんは、2007 年にテレビ番組への出演がきっかけで、乳がんが見つかり摘出手術を受けました。ご自身の体験を踏まえ、「チーム医療や色んな方に助けていただいた」との思いから、現在は講演やがん撲滅チャリティーコンサートを通して、早期発見・早期治療の大切さを訴えています。

20 歳で芸能界に入ってからどんなに具合が悪い時でも「とりあえず寝て治してきた」という山田さんも、「乳がんかもしれない」と言われた時には、さすがに眠れなかったそうです。けれども「検査して良かったじゃない。早期発見だし、できている場所も良いし、手術してもあっという間だよ」という医師の言葉に前向きな気持ちを取り戻し、闘病が始まりました。まずは 1 ヶ月余りに及ぶ検査。慣れない病院で待ち時間の長さや検査の多さに戸惑い、こうしているうちにもがんが進行して手遅れになってしまうのではないかと心配になりましたが、主治医は、山田さんの乳がんは 8 年ぐらい前にできたもので、時間をかけて調べる必要があるのだと説明してくださったそうです。

身体が元気で免疫力があれば、がん細胞ができたとしてもすぐに消えてしまいますが、何らかの原因で消えなかったものが、少しずつ大きくなっていき、乳がんの場合には、大体 10 年で 2

センチぐらいになります。ここまでが早期発見で、手術も乳房を切除しないで済むと言われています。「だからこそ、1年に1回は難しくても、せめて2年に1回は検診を受けることを心がけてください。」と訴える山田さんの表情は真剣でした。

手術の前夜には、「早期発見だから大丈夫」という思いと「万が一のことがあるかもしれない。」という不安が入り混じり、病院の夕食をゆっくりとかみしめながら、「これまで年間に1000食くらい食べてきたお弁当は美味しいけれど脂分も糖分も多い。やはり粗食の方がいいな。」と考えたり、「最後歯磨き」・「最後読書」・「最後散歩」など、自分の行動の1つ1つに思わず「最後」という言葉をつけてしまったりしたそうです。けれども実際に手術が始まってみると、覚えているのは麻酔をかけ始めて「1」と数えたところまでで、目が覚めたら4時間弱の手術（1つの乳がんで大体2時間。山田さんの場合は両方にあった）が終っていて、「ありがたいなぁと思いました」と笑顔で話してくださいました。

乳がんの闘病体験談にもかかわらず、MRIを「いもあらい」と聞き違えて焦った、手術のために胸につける印が油性マジックで手書きだったことにびっくりした…等々、ユーモアたっぷりの山田さんのお話しに、参加者は大笑いをしながら聞き入っていました。

今、日本は"がん大国"で、2人に1人が亡くなる前に何らかのがんにかかると言われています。けれどもむやみに恐れるのではなく、きちんと知識を持って早めに治療すれば死なないと覚えておくことが大切なのだと、山田さんは仰います。

視診・触診・エコー・マンモグラフィという乳がんの検診を、必要なことだと頭では分かっていても、「恥ずかしい」、「痛い」といった理由で躊躇する人も多いそうです。そんな人達の背中をそっと前に押すような、山田さんの優しさと笑顔が印象的でした。

第2部　スター混声合唱団コンサート

スター混声合唱団は、山田さんを団長、自らもがん闘病中であるジャーナリストの鳥越俊太郎さんを副団長として、2008年4月に結成されました。「がんに立ち向かう人たち、そして、その家族のみなさんを勇気づけたい」「がんの早期発見治療の大切さを伝えたい」という思いに共感したタレント・女優・歌手・デザイナー・アナウンサーなど68名がメンバーとして参加し、コンサートの収益を関連団体に寄付するなど、さまざまなチャリティ活動を行っています。

▲ 徽音堂で歌うスター混声合唱団のメンバー

▲ スター混声合唱団のメンバーに花束を手渡す附属中学校の生徒たち

この日は、自らも乳がんの体験者である女優の倍賞千恵子さん、音無美紀子さんら20名ほどが集まってくださり、「フニクリ・フニクラ」の曲に合わせた『スター混声合唱団の団歌』からコンサートが始まりました。『紅葉』『赤とんぼ』といった秋の歌や、『ドレミの歌』『おもちゃのチャチャチャ』などのおなじみの歌は、会場の大人も子どもも一緒になって歌ったり、手拍子をしたりしました。また、「自分はもちろん、周りの友達や家族も大切にしながら、お互いに支え合っていけるように」との願いを込めて山田さんが作詞なさった『あなたが大切だから』という歌は、「つなげよう心を　虹のリボンで」というフレーズが印象的でした。

コンサートも終わりに近づき、附属中学校の近藤和雄校長先生と生徒たちからメンバー1人1人に花束が手渡されると、『見上げてごらん夜の星を』とともに、山田さんは「こんな私でもメソメソすることがあります。でも泣くっていうのは生きているからです。明日笑えばいいなって、そう思っています。」と会場に語りかけました。最後は手話を交えて全員で『手のひらを太陽に』を歌いました。

この合唱団を結成するにあたって山田さんには「大きな声で歌ったり笑ったりして免疫力が高まるのだったら、やってみよう」という思いがあったそうです。その言葉のとおり、会場が一体となって歌い、笑い、楽しいひと時となりました。

（スター混声合唱団HP：http://sutakon.jp/）

（協力：お茶の水女子大学附属中学校 PTA）

逗子にある緑豊かな理想の棲家

高齢者専用賃貸住宅 “桜山ハイム結生（ゆい）”

見学・体験泊
随時実施中！

自立生活の支援

“桜山ハイム結生”は、高齢者の為に整備された住環境のもと、その人らしく生き生きとした生活が送れるよう、「自立生活の支援」を第一に考えた住宅です。

施設ではなく「住宅」

プライバシーを尊重した個室部屋（32.02～44.94㎡）は、もちろんバリアフリー設計。ご夫婦でもご利用いただけます。大切なペットとの生活もご相談ください。
スタッフが 24 時間常駐しているほか、各部屋の異常を感知する最新設備を導入しているので安心です。
専属の料理長によるおいしい食事も魅力です。
もちろん気に入っていただければ、終の棲家としてご利用いただけます。

介護が必要になったら？

可能な限りの自立を支援しますが、介護が必要になった場合には、介護サービスを利用していただけます。

桜山ハイム結生（ゆい）
神奈川県逗子市桜山 5-39-16
TEL：046-870-6645
http://www.yui-sakurayama.com/

ヤマザキ
www.yamazakipan.co.jp

おいしいパンと暮らそう。

たとえば、新鮮な朝の空気を深呼吸したり、
庭に咲く小さな花を見つけたり、
朝食のパンがおいしかったり。
特別なことじゃなくて、
そんな、ふとした時に感じる幸せが、
毎日をちょっと素敵に、
豊かにしてくれるのだと思います。

ライフサイエンスから生まれたスキンケア

細胞生物学の最先端研究の中で室伏教授が発見した新成分ｃＰＡ（シーピーエー）は、あなたの体内のヒアルロン酸を増やして、本来あるべき良好な状態に導きます。
雅Graceはｃ PAを配合した世界初のスキンケアです。

室伏きみ子（お茶の水女子大 教授）監修

新成分 cPA 配合

肌のヒアルロン酸増加 ／ 保湿成分 ／ コラーゲンの働き強化

雅Grace
グレイス化粧水 150mL
雅Graceグレイス乳液 100mL
雅Graceグレイス美容液 30mL
※写真は、グレイス化粧水 150mLです。

美しく見える肌ではなく、ほんとうに美しい肌へ。
雅Grace —グレイス—、誕生。

販売元：SANSHO株式会社 TEL 03-5203-0716 WEB http://c-pa.jp/
なお、お茶の水学術事業会で、特別価格でお取り扱いをしております。
詳しくは、本会事務局まで お問い合わせください。
E-mail：info@npo-ochanomizu.org TEL & FAX：03-5976-1478

編集後記

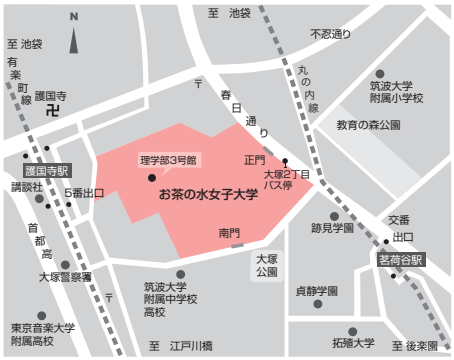
「最近のお茶大はどうですか?」事務局にお電話をくださった先輩方からたまにそんな質問をされることがあり、離れていても母校を思う気持ちの深さに胸を打たれます。「女子大学から生まれるイノベーション」シリーズや附属学校園の取り組みをご紹介した記事を通して、“頑張っている”お茶大の雰囲気を少しでもお伝えできれば幸いです。

広告募集

このページに広告を掲載しませんか？ 次号は 2011 年 6 月に 2500 部発行予定です。会員の皆様はじめ全国の公共機関などに配布しています。広告料金は、1 回につき 20,000 円。詳しくは下記までお問い合わせください。

事務局

OPEN 月～金 10:00 ～ 16:00
〒 112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学 理学部 3 号館 204
TEL&FAX 03-5976-1478 E-mail : info@npo-ochanomizu.org
http://www.npo-ochanomizu.org
※会員の方は、お問合せの際、会員番号をお知らせください。会員番号は封筒の宛名ラベルに印字してあります。



◆事務局所在地
東京都文京区大塚2-1-1
お茶の水女子大学
理学部3号館204

◆交通機関

地下鉄 丸の内線
茗荷谷駅から徒歩7分

地下鉄 有楽町線
護国寺駅から徒歩8分

都バス
大塚2丁目バス停すぐ

2011 年 1 月 25 日発行 お茶の水学術事業会会報「*ellipse*（エリプス）」第24号 編集発行／特定非営利活動法人お茶の水学術事業会 印刷／光写真印刷株式会社